

社会資本総合整備計画 事後評価書

平成30年3月

計画の名称	24 新幹線駅を核とした交流拠点づくりと利便性の高い道路ネットワークの整備									
計画の期間	平成25年度～平成29年度（5年間）			交付対象	富山県、氷見市、入善町					
計画の目標	東海北陸自動車道や能越自動車道等の高速道路や、富山高山連絡道路をはじめとした地域高規格道路等による広域的な道路ネットワークの整備を促進するとともに、追加インターチェンジ（IC）の設置やアクセス道路の整備等による利便性の向上を図る。 新幹線駅へのアクセス道路の着実な整備を図るとともに、新幹線駅やICを核として主要観光地・産業拠点・市町村等を相互に連絡する道路についても、選択と集中による計画的かつ体系的な整備を行う。 自動車交通量の増加が見込まれるこれらの道路については、歩行者や自転車も安全で使いやすい道路となるよう整備する。									
計画の成果目標（定量的指標）	県内の高速道路のインターチェンジの数を、21IC（H25）から23IC（H29）へ増加させる。 道路の走りやすさ割合を、約68%（H25）から69%（H29）へ増加させる。 事故発生件数（人身事故）を、5,000件以下へ減少させる。									
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値			備考			
				当初現況値 (H25当初)	中間目標値 (H27末)	最終目標値 (H29末)				
	県内の高速道路（北陸自動車道、東海北陸自動車道、能越自動車道）のインターチェンジの数を計上する。			21IC	23IC	23IC				
	道路の実延長（国道道合計）のうち、車道幅員5.5m以上改良済み、かつ道路が混雑することなく円滑に走行できる割合を算出する。 （道路の走りやすさ割合）＝（車道幅員5.5m改良済みかつ混雑度1.0以下の道路延長）／（道路延長）			68.3%	68.7%	69.0%				
	交通事故白書（富山県警察本部）の事故発生件数（人身事故）を計上する。			約5,200件	5,000件以下	5,000件以下				
全体事業費	合計 (A+B+C)	8,287 百万円	A	8,287 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%

事後評価（中間評価）

○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期	
事後評価（中間評価）の実施体制	事後評価（中間評価）の実施時期
富山県土木部道路課	平成30年3月
	公表の方法
	富山県ホームページ

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	県内の道路整備が順調に進捗した結果、定量的指標に反映されたと考えられる。				
II 定量的指標の達成状況	指標①（インターチェンジ数）	最終目標値	23IC	目標値と実績値に差が出た要因	計画的なインターチェンジ整備により、目標を上回る結果となった。
		最終実績値	24IC		
II 定量的指標の達成状況	指標②（道路の走りやすさ割合）	最終目標値	69.0%	目標値と実績値に差が出た要因	道路整備の着実な進捗により、目標を上回る結果となった。
		最終実績値	70.4%(H28末)		

II 定量的指標の達成状況	指標③（死傷事故件数）	最終目標値	5,000件以下	目標値と実績値に差が出た要因	事故危険箇所などの道路改良の実施により、目標を大きく上回る結果となった。
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 （必要に応じて記述）		最終実績値	3,238件		
3. 特記事項（今後の方針等）					
（この欄は空欄です）					

